日本地球電気磁気学会会報（第109号）

1985年11月30日

日本地球電気磁気学会
東京都文京区弥生2－4－16
学会センタービル
（財）日本学会事務センター内
電話　（03）817－5801

I　第78回総会ならびに講演会

第78回総会ならび講演会は，10月15日から17日までの3日間，京都大学工学部のお世話で，京都市内の京都教育文化センターで開催された。16日午後には，荒木運営委員を座長として「電離層物理学研究とその発展」というテーマで，前田憲一名誉会員をはじめ松浦延夫，大林辰蔵，加藤進，木村磐根の各会員による特別講演が行われた。特別講演に先立って行われた総会の次第は次の通りである。

(1) 議　長　　広岡運営委員

(2) 大会委員長あいさつ　　木村磐根大会委員長

(3) 運営委員会報告　　飯島（庶務関係），河野（JGG関係），両運営委員

(4) 会長あいさつ　　小嶋会長

(5) 田中館賞授与

第99号　渡辺堯　会員

『電波源シンチレーション観測による惑星間擾乱の研究』

第100号　津田敏隆会員

『レーダによる中層大気力学の研究』

第101号　竹田雅彦会員

『電離層3次元電流系と地磁気Sq変化』

(6) 田中館賞審査報告（小嶋会長）

今回は3件の申請がありました。評議員会で審査いたしました結果，3件とも質の高い優れた研究である，との結論に達し，今回の受賞に決定した次第です。今回の申請はいずれも超高層関係の研究でしたが，今後もひろく学会会員のすぐれた研究を学会賞に御推薦下さる

よう，会員の皆様にお願いいたします。

(7) 議　事

(i) 次期総会・講演会開催地

前回総会で決った通り，第７９回総会・講演会は東京工業大学のお世話で昭和６１年４月７日－１２日のうちの３日間，東京工大のキャンパス内で開催されることを確認。

(ii) 次期総会・講演会開催地

国分運営委員より第８０回総会・講演会を，九州大学理学部にお願いしたい旨の提案があり，これを受けて，同大学北村会員より引受ける旨の発言があり，可決された。

(iii) 学会名称について（小嶋会長）

秋期学会総会で“学会名称”問題につき御討論いただきました。これを受けてとりあえず会長から下記４名

鶴田浩一郎，松本　　紘　（超高層関係）

本蔵　義守，新妻　信明　（固体地球関係）

の方々にお願いして，今後の具体的な作業の進め方などを検討していただくことに致しました。この第１回会合は１２月中にも持ちたいと考えております。この問題については，できるだけ広く学会員の御意見をいただくことが必須と思いますので４名の方々，または私あてに御意見をお寄せいただければ幸いです。

(8) 謝　辞　　大家　寛評議員

Ⅱ　新入会員

運営委員会で承認された新入会員は次の通りです。（＊印学生会員）

西　端　義　樹　（電 波 研）	石　津　美津雄　（電 波 研）
佐　竹　健　治　（東工大理）	石　原　良　俊　（京産大理*）

Ⅲ　地球電磁気学研究連絡委員会（日本学術会議）報告（行武会員）

1. 委員会の任務

(1) 地球電磁気学，超高層物理学研究の現状およびその長期的動向の把握，ならびに将来計画の立案や研究条件の整備をはかる。

(2) 国内的には，地球電磁気学，超高層物理学に関連する諸学，協会を通じて国内科学者の研究活動の連絡の場となる。

(3) 国際的には，国際測地学，地球物理学連合（IUGG）の傘下の国際地球電磁気学超高層物理学協会（IAGA）に対応して，世界の科学者との研究連絡に当る。

2. 日本学術会議法の改正に伴う改組

地球物理学研究連絡委員会に所属していた７分科会が，昭和５９年１１月１日それぞれ研究連絡委員会に昇格し，地球物理関係の研連は委員定数各９名の８研連（地球物理学，測地学，地震学，火山学，地球電磁気学，気象学，陸水，海洋物理学）となった。

3. 第１３期（昭和６０年７月２２日～昭和６３年７月２１日）委員

委員長；大林辰蔵，幹事；行武　毅，委員；大家　寛，小口　高，小嶋　稔，加藤　進，西田篤弘，福島　直，力武常次

4. 当面の問題

(1) 小委員会の存続：

学術会議法の改正に伴ない研連に付置されていた各種小委員会（例えば環境問題小委員会や，臨時に活動したMAGSAT小委員会など）が消滅し，再組織が不可能な状況になっている。第１２期では地球物理関連の委員長が連署してその存続を会長宛要望したが，第１３期においても各研連共通の問題となっている。

(2) 科研費「重点領域研究」に関連して：

科研費「特別研究」および「特定研究」に代えて，新たに「重点領域研究」が設置されることになった。「重点領域研究」についても，これまで「特定研究」について行なってきたと同じような学術会議推薦が行なえるよう，地球電磁気学研連では学術会議会長宛要望書を出すことになった。

悲報　田中春夫会員（名古屋大学名誉教授）

田中春夫名古屋大学名誉教授（前空電研究所太陽電波・宇宙電波部門）は去る昭和６０年１０月２７日午後脳出血のため自宅で逝去されました。享年６３歳。同名誉教授は昭和１９年９月東京帝国大学第一工学部電気工学科を卒業，同大学院特別研究生を経て，同２４年８月名古屋大学助教授に就任，同３３年２月教授に昇任，同５１年１月東京大学に転任するまでの２６年余にわたり空電研究所において電波天文学に関する研究教育活動域に専念され，東京大学転任後は東京大学東京天文台教授として全国共同利用の大型宇宙電波望遠鏡の建設の重責を果たされました。昭和５７年３月東京大学退官後，同４月東洋大学に転任され，電波天文学の研究教育活動を更に継続されていました。

名古屋大学では着任以来，担当部門の整備，空電研究所の充実発展に寄与し，また，その高い識見と温厚にして高邁な人柄をもって，２６年余の在職中教育を研究を通じて後進の指導，人材の育成に務め，名古屋大学発展に多大の貢献をしたことは同名誉教授の教育上の功績であります。この間，名古屋大学評議員として大学全般の管理運営に参画し，学内行政に尽力され，更に空電研究所長として様々の新しいアイデアを出され，研究所の運営と発展に務められました。また，東京大学転任後も昭和５１年１月から同５５年３月まで空電研究所の併任教授として研究所の運差に尽力されました。

同名誉教授の学術研究上の業績は「太陽電波の研究」に関するもので，名古屋大学着任と同時に，我が国で初めてマイクロ波太陽電波の研究に着手，電波干渉計を製作し，その後一貫してこれを発展させ，世界最先端の太陽電波の観測所を築かれました。マイクロ波帯４波長で高精度の連続観測，大フレアの発生予測，コロナホールの観測等の観測的研究で数々の業績をあげられました。これらの結果はＳＴＰ分野で広く用いられています。

また，同名誉教授は国内・国際学会，学術会議，様々な審議会等においても，その見識，人柄から役員，委員に推挙され，活躍されました。その範囲は日本天文学会，日本地球電磁気学会，国際電波科学連合，国際宇宙空間研究連絡委員会，国際天文学連合，電波科学研究連絡委員会，天文学研究連絡委員会，総理府宇宙開発審議会，郵政省電波技術審議会，文部省測地学審議会等の広い分野に及び，また，様々の国際共同観測事業の企画，推進，実行に参加され，Ｃ－２世界資料センターの設立に尽力されました。こうした豊富な経験を生かすべく日本天文学会より推薦されて昭和６０年７月に第１３期学術会議会員に就任した矢先に，これらの広い分野で充分な活躍をされるいとまもなく，亡くなられたことは真に残念としかいいようがありません。ここに慎んで哀悼の意を表します。